

8. 下宗岡地区

(1) 下宗岡地区の概況

荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の南部に位置する住工混在エリアで、本市の中で最も人口が少なく、また人口密度も最も低い地区です。将来的には地区の東西方向に一般国道254号バイパスの整備が予定されています。

なお隣接する荒川河川敷（荒川堤外）には、広々とした農地とスポーツ施設の集約がみられます。



(2) 下宗岡地区の人口動向

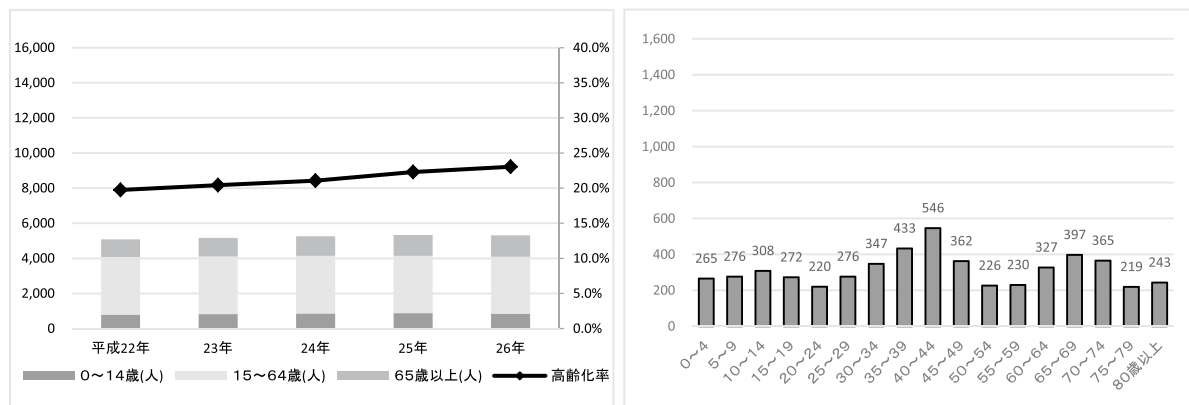
近年の人口は、平成22年の5,085人から平成26年の5,312人と増加傾向となっており、7地区の中で最も人口が少ない地区となっています。高齢化が進行しており、平成26年には高齢化率が23.0%となっています。

年齢別の人口構成では、30歳代～40歳代が特に多くなっています。

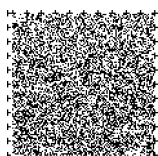
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	5,085	5,163	5,251	5,326	5,312
0～14歳(人)	796	823	861	875	849
15～64歳(人)	3,285	3,286	3,284	3,264	3,239
65歳以上(人)	1,004	1,054	1,106	1,187	1,224
高齢化率	19.7%	20.4%	21.1%	22.3%	23.0%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成26年の5歳階級別人口（グラフ）



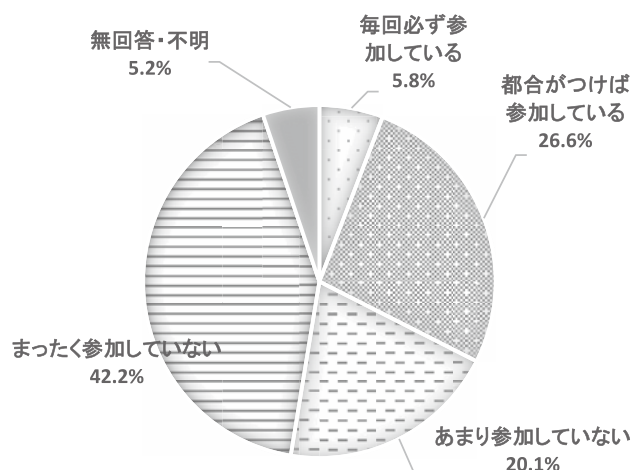
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



(3) 下宗岡地区の市民意識

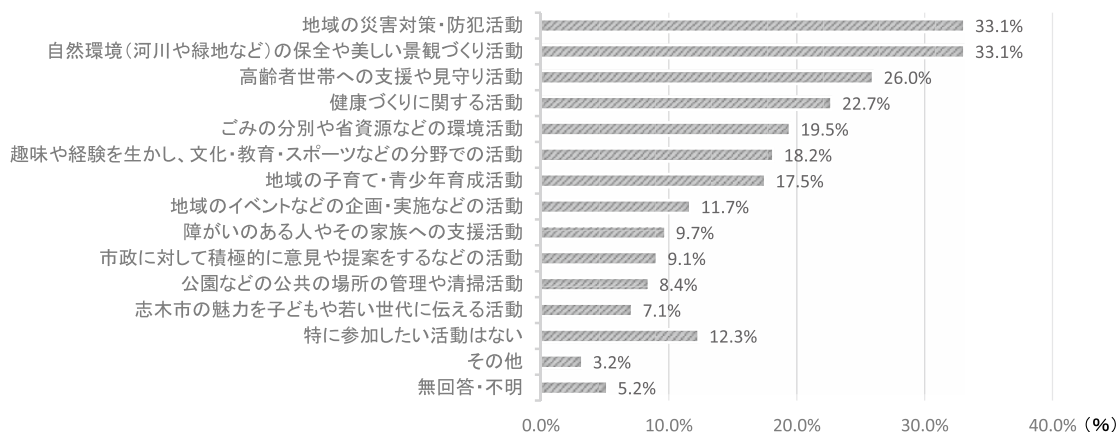
- 地域活動への参加意識は、「都合がつけば参加している」が26.6%となっており、比較的参加意識が高い地区といえます。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「地域の災害対策・防犯活動」や「自然環境（河川や緑地など）の保全や美しい景観づくり活動」が高く、荒川や新河岸川に囲まれた地域の特徴といえます。

■地域活動への参加



(N=154)

■市民力を生かしたい活動



(N=154)

※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「コミュニティ」においては、新旧住民間や外国人との交流や、地域活動のメンバーの固定化が課題にあがっています。
- ・「道路」については交通量の多さや歩道の段差による危険性、「美化」については不法投棄やゴミのポイ捨て等が課題としてあがっています。
- ・荒川の増水氾濫による「災害」の危険性、商店や病院等が近辺にないことから「利便性」についても課題となっています。

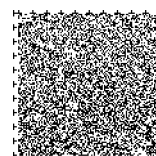
② 優れている点・強み

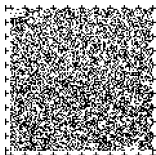
- ・「コミュニティ」については町内会活動やイベント等が盛んであること、「自然」については荒川やその周辺の田んぼ、土手等による豊かさが強みとしてあがっています。
- ・「利便性」の良さや落ち着いた住環境、子育てのしやすさ等もあがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・町内会で防災訓練を実施するなど「防犯・防災」活動、夏祭りや町内行事などの「イベント」に関する活動、地域で子どもを育てる「教育」活動に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出





（５）下宗岡地区の課題

地区の現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の３つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 一般国道 254 号バイパス整備に際しては、広域道路網の充実だけでなく、沿道土地利用の誘導などにより地区の発展にも寄与するような取組が求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 荒川堤防沿いなどにおいて新たな住宅地も形成されているため、住民相互の交流や団地やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。
- 増加している高齢者が住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などが求められています。

【住環境に関する課題】

- 志木駅方面に向かうバス路線が限られているため不便に感じる人が多い一方で、北朝霞駅方面ともバス路線で結ばれています。
- バス路線以外には狭隘な道路も多い中で運輸関係の施設も多数立地しており、トラックの通過などによって歩行者が危険を感じる場合が多々みられます。
- 近年大きな災害には見舞われていませんが、荒川低地に広がる低層市街地であるため河川氾濫の危険性が指摘されています。

（６）下宗岡地区のまちづくり方針

以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針 1

市役所及び本町通りに通じるいろは通り（さいたま東村山線）沿道において、商業施設の集積や魅力的な沿道景観の形成を図ります。

【具体的施策】

持続可能なまちづくりの推進

【取組内容】

人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。
また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。

方針 2

河川、農地、屋敷林などの一体的な保全や、歩行者・自転車空間の充実などにより、自然豊かな人や地球環境にやさしい地区イメージの形成を図ります。

【具体的施策】

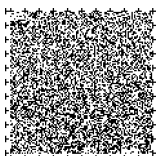
みどり豊かな暮らし

【取組内容】

季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進するとともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。

環境に優しい
交通手段

都市の低炭素化に向けた取組として、環境にやさしく、交通の利便性の高いまちを推進します。



方針3

荒川河川敷（荒川堤外）のスポーツ施設と連携し、日常の健康づくりやスポーツ・イベントの拡充などによりにぎわいの創出を図ります。

【具体的施策】

健康ライフスタイルの支援

【取組内容】

成人の健康や体力づくり、子どもの体力向上、高齢者の健康寿命の延伸、障がい者のスポーツ参加の支援等を健康・福祉部門と連携して実施していきます。

スポーツ・レクリエーション活動の支援

各スポーツ団体が自立した運営を行いながら、スポーツ・レクリエーション事業を拡大する支援を行います。

スポーツ施設の整備・活用

市民のニーズにあわせて、安全・安心で快適なスポーツ施設の活用を促進します。

方針4

増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などを促進します。

【具体的施策】

高齢者福祉の充実

【取組内容】

高齢者及び要介護者等が自立した生活を継続できるよう、本人や家族を支援するため、市独自の事業を実施し、利用の周知とともに、支援情報、保健・福祉及び関係機関の連絡体制を強化します。

住宅施策の推進

子どもから高齢者、あらゆる世帯の誰もが安全・安心で快適に暮らすことができるよう住環境を取り巻くさまざまな課題を整理し、良好な住まい・住環境の形成を目指します。

方針5

新旧住民や多様な世代の交流促進により市民が一体となった地域活動の活性化を図り、住み心地の良いコミュニティの形成を促進します。

【具体的施策】

地域コミュニティの活性化

【取組内容】

町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。

方針6

河川氾濫の可能性を踏まえて、安心して住み続けられるように、安全な避難路の確保と避難所の充実を図ります。また、緊急時対応については、隣接する朝霞市との連携強化を図ります。

【具体的施策】

水害対策

【取組内容】

都市型災害を防止するため、市民・民間事業者の開発などにあわせて雨水流出抑制施設の設置を指導・啓発するとともに、雨水貯留施設や未整備水路の整備と維持管理を進めます。また、排水機場等の維持管理や施設の長寿命化を図ります。
大雨や台風、局地的集中豪雨における浸水対策として、設備の効率的な配置や更新、維持管理を行います。

防災体制の充実

日頃から市民の生命・身体・財産を保護するため、災害被害が最小限となるよう防災体制の強化を図るとともに、地域の防災力を高めます。